

広報

おれい

NO. 481

平成10年9月10日



『寒九のとろろの里』を目指して
まずは、郷土を知ることから



〒948-0192 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 TEL0257-68-3111 FAX0257-68-3828
発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社 (毎月10日発行)

人口の動き

— 9月1日現在 —

男 4,184 (+1)

女 4,257 (+5)

計 8,441 (+6)

世帯数 2,259 (+1)

() は前月比較

磨け技術!



練習場にあてられたハルビン市人民体育館で、日中の関係者が記念撮影

卓球交流事業で生徒を中国へ派遣

今年度、町が新規事業として取り組んでいる中国黒龍江省との卓球交流事業においては、中国からの指導者王コーチが五月七日来町。以来、午後は中学生・高校生を、夜間にスポーツ少年団・一般をそれぞれコーチする日程で活動されていることは、すでに紹介をしてきたところです。

中国黒龍江省への生徒派遣交流については、八月十四日、役場で派遣結団式が実施され、小海教育長を団長に大人五人、高校生一人、中学生九人の十五人が発表されました。一行は八月十七日に出発し、二十四日まで八日間の日程でハルビン市などを訪問してきました。今回の交流事業に参加された生徒の皆さんのレポートをもとに、その一部を紹介します。(敬称略)

卓球交流を体験して

根津英和(高1 朝日町)

僕は、中国の選手を見て、全員の基本動作がしっかりとできていると感じた。それに、みんなしっかりとボールを見ているから、空振りやラケットの角に当ててしまうということもありません。

次に、フットワークです。中国

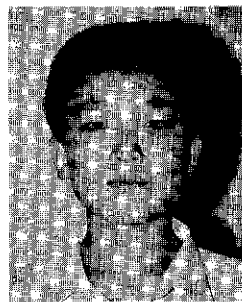


根津さん

の選手は、どこに振ってもしっかりと足を動かして打つから、バランスをくずすことがあまりありません。だから、左右に振られたボールでも、前後のボールやネットに引っかけたボールも打つことができていました。やはり、基本動作とフットワークができています。選手は強いと改めて思いました。

卓球交流を体験してみても

佐藤泰之(中2 野口)



佐藤さん

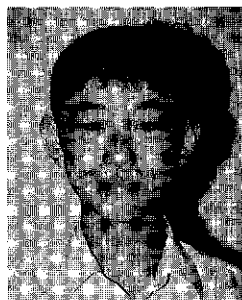
卓球交流をしてみても感じたことは、練習試合をして全く相手にならなかったことだ。ドライブはミスも少なく回転量も多い。サーブスもレシーブもすごい。それと、三球目攻撃がすごい。あまいボールは確実に入る。スマッシュされるような高さまで上がったら最後だ。豪快なスマッシュは、ラケットに当てることさえできない。しかし、何と言っても基本技術が高い。全くと言ってもおかしくないほどミスが少ない。ボールを打球した後まで全くボールから目を離さないから、空振りが少ない。

全ての面においてレベルが違った。卓球交流事業をしてみても

江口一樹(中2 朝日町)

試合前の基本練習で、中国のすごさを見せつけられた。速いスピードのボールを楽々と打っていたのだ。自分の相手だけでなく、見回してみると、ほとんどの人が同じくらいのスピードのボールを楽々と打っていた。試合が始まった。やはり、とても強かった。フォアでもバックでもスマッシュを入れて、どんどん得点された。

基本練習でドライブの練習をさせてもらった。中国の選手のように速くもないし、回転もあまりなかった。中国のコーチにアドバイスをしてもらい、最初よりも速いボールが打てるようになった。



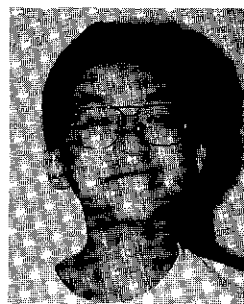
江口さん

中国の思い出

村越 勉(中2 野口)

中国では、サーブ権を決めるとき、ボールを右手か左手にかくして、両手を台の下で広げるのである。こちらはボールを持っていると思う手を指でさす。当たっていればサーブで、はずればレシーブである。始めは意味がわからず、相手はこちらにサーブをくれた。僕ががんばってサーブを出して

も、打たれたりして点が取れない。レシーブをすると、回転が分からず、どこかに飛んでいたりする。うまく返しても、打たれたり、ドライブされたり、全くダメだ。とにかく強いのだ。

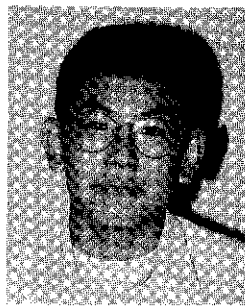


村越(勉)さん

卓球交流事業を体験してみて

山口政志(中2 仁田)

「中国の卓球は、僕たちより数段も強い。そう感じたのが初日の練習試合の時だった。僕たちより小さい子でも強力なドライブを打ち、ボールを台の角に打つためのコントロールされた技術を持っている。発射台の「ひざ」の強化、コート周りのところ狭しと動くための「脚力」の強化、さらに、強力なドライブを連発するための「肩・腕」の強化がきている。学んだ技術などは、練習を通じて出せました。自分では満足がいく貴重な体験となった。今後の自分に役立てて、もっと強くなりたいと思っています。



山口さん

中国へ行つて

高津久仁子(中2 寺ヶ崎)

行く前から、「中国の人たちは強い子が多いぞ。」と、何度も聞いていたので、私は、「どのくらい自分と差があるのだろう。ついていけるだろうか。」などと、不安がありました。

初日に練習をしたのは小さな小学生の子でしたが、フットワークもよく、とても上手でした。また、中国の人のボールはとてもスピードがあつて、重いボールでした。短い時間だったけど、とても勉強になりました。これから直さなければならぬところも見つかりました。中国へ行つたことがムダにならないようにしていきたい。

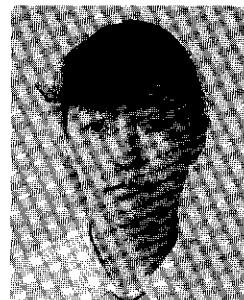


高津さん

卓球交流をしてみて

田畑のぞみ(中2 元町)

中国の人達と練習をやるまで、言葉のことなどいろいろ心配をしていました。だけど、いざ練習を始めてみると、そんな心配は全くないことが分かりホッしました。自分と同じくらいの年齢の子と練習したのですが、その子は、私がミスをする時、「そういう時はこう」と動作で教えてくれました。教えてもらったことができるまで



田畑さん

何回も練習に付き合ってくれ、できるよになると、それを生かした別の練習をしました。

休憩は、紙などに字を書いて、名前や住所を教え合い、交流を深めました。

交流会に行つて来て思ったこと

大久保直子(中2 野口)

「本場の技術はどれほどなんだろう。練習相手になるのだろうか」行く前、そんなことを思いました。

むこうの人と卓球をしてまず感じたことは、ロングやショートなどの基本的な技術で、ボールのスピードが私達が普段しているものと比べてずっと速かったこと、その基本技術ではほとんどミスをしなかったことです。

そのほかにも、日本ではなかなか見られないような技術を小学三年生から高校生まで、交流会に来ていた人達はほとんどみんなが使っていたのを見て、本当にすごいと思いました。



大久保さん

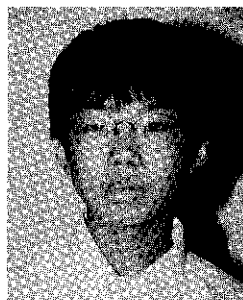
卓球交流会に参加して

星野拓己(中1 野口)

卓球の練習場に行くと、中国の選手数十名の皆さんが拍手で迎えてくれました。それまでは緊張していたのですが、だいぶ気が楽になりました。

日中両選手が並んで自己紹介をしたあと、試合形式で練習をしました。相手が女の選手でしたが、とてもうまくかったです。練習でも、同じ選手とやったのですが、うまくいかないところを何度も注意されました。

交流会に参加できたことは、僕にとつてはとてもプラスになることばかりでした。



星野さん

中国の人と卓球をしてみて

村越藍子(中1 野口)

私は、「中国と日本の卓球はどこが違うのか、練習をしている環境を見てみたい」、そんなことを思つて出発しました。感じたこと



村越(藍)さん

は、中国の卓球はボールを打つ時「パチッ」というようなすきとおった音で、ボールのスピードも、とても速かったことです。卓球場は思っていたよりきれいで、台の数も多くありました。だけど、ちょっと暗かったような気がしました。

言葉が分からないので、台の上に漢字を指で書いて教えてくれました。だいたい分かりました。

国際交流の端緒が開けた

小海教育長

まずもって、全員無事帰町できたことを喜びたい。

言葉は通じない、食べ物も全く異なる、生活・文化のあまりにも大きな相違に、一行は日々緊張の連続であった。しかし、子供たちの卓球交流は、当方の技術力の低さをまざまざと感じさせられたものの、終始なごやかに、意義深いものがあつた。

黒龍江省教育委員会、外事弁公室、交際処などの皆さんも、今回の交流実現を心から喜んでくれ、大歓迎してくれました。

街中は、車・自転車、三輪車(自動・人力とも)、馬車、人と、広い道をいっぱいに動き回っていたが、それは、わが国の昭和三十年代から今日までをミックスしたような趣きであった。

子供同士、大人同士、それぞれ親密な交流ができ、国際交流の端緒が開けたものと思つている。

お寄せください あなたの意見・提案・質問 (6～8月到着分)

(38歳・女性)

① 若い人たちの働く場が川西町・十日町市管内になく、みんな遠くに出てしまっている。安心して働ける場所が早急にほしい。

② 診療所玄関ロビー待合室は、冬など、玄関ドアが開くたびに冷たい風が入ってきて、いすに座っていると、足が冷たくなってしまふ。具合の悪い人には辛いことです。具合の悪い人には辛いことですので、間仕切りなどを付ければ暖房効果も高まり、改善されるのではないかと。

③ 経済不況は全国的な大問題であり、川西町・十日町市にあっても大変厳しい労働条件の実態となっています。そんな中、近々、男性雇用型の企業が進出される計画も進んでいます。また、ほくほく線が開通して都心との距離感も近くなり、十日町市のベッドタウンとして、これからますます交流人口の増加が期待されるところです。

このようなことから、人々が集いあえるまちづくりに向け、千手温泉を核とする「賑わい空間創出事業」や、仙田地域の生活基盤整備を取り入れた「中山間地域総合整備事業」の導入、広域事業として取り組んでいる「越後妻有アートネットワーク整備事業」など、ビ

ッグ・プロジェクト事業として展開をして、職場と雇用の拡大につなげたいと思います。

④ 正面玄関は、風除室と玄関の自動ドアがセットされ、玄関、ホール、待合室がワンフロアで広いことから、暖房には時間を必要としています。しかし、このスペースは、ゆとりのあることで大変喜ばれています。

待合室は長いす掛けの場所と二畳の和室が用意されており、和室には、冬は電気コタツもあり、寒気のある方や、膝や足の冷え性の方々からご利用いただいている現状にあります。

しかしながら、玄関ドアの開閉調整や、冬期間だけでもエアーカーテンを稼働する方法や和室の改善などについて、専門家を交え検討させていただき、利用しやすい診療所にしたいと思います。

町長室からこんにちは

今年に入って新潟空港からの国際線の定期就航が、目立って増加しています。これは新潟空港が、空港ターミナル整備や、滑走路延長などを行って、名実共に国際空港としての条件整備を進めたためで、関係者のご努力の賜です。

私は、先般新潟空港からホノルル空港までの、プログラムチャーター初便に搭乗する機会に恵まれました。プログラムチャーターとは、定期化を前提とした一定期間の運行という意味だそうです。

初便には、一般乗客のほか、ハワイ州の関係機関を表敬訪問する十五名が選ばれました。私は、そのうち県内町村長代表として加えて頂きました。費用はすべて県町村会負担という願ってもない条件でしたので、有難く参加した次第でした。

日本とハワイの時差は十九時間。

時計を五時間進めて、日付を一日戻して調整します。私も日本人の外国旅行は、ハワイから始まると言われるように、行く所は日本人旅行者で溢れていました。

ハワイの収入源は、何んといつても観光収入で、各島々の飛行場は質、量とも整備されています。明るい陽光の輝やく常夏の国ハワイも、適度の風があるため湿度が低く、大変過ごし易く感じました。

表敬訪問は、ハワイ州政府、同議会、日本領事館、日本航空及び日本交通公社ホノルル支局、新潟県人会事務所、視察場所は、ホノルル空港と同港湾施設でした。

州政府の副知事は、五歳まで福島県で育ったという、メイジー・ケイコ・ヒロノ氏(女性)です。私が「川西コシヒカリは日本一。」と宣伝したところ、「日本一はたくさんあるのですか。前に秋田県の方も日本一と言われました。」には

方「日本一と言われました。」には参りました。最近の入札価格など説明し、是非試食をと帰町後少々送りましたが、未だ返事は頂いていません。

自動車でも眺める限り、住宅街でも洗濯物は全く見えません。外から見える場所に、洗濯物やフトン干しは州の法律で禁止されているそうです。また、オフィス街でも建物の最高制限があるため、ビル等が整然としています。変わったことでは、自動車のナンバープレートに星条旗が組み込まれているのは、戦争に従軍した人の運転する車です。戦争で国家のために身を削った人を生涯尊敬する国民気風の表われでしょうか。

私も、アメリカ合衆国は「自由の国」といった観念を持っています。しかし、洗濯物を外から見せないという法律のように、多少の不便はあっても、観光立地のためなら皆さんで協力して、快適な地域づくりに努めている一面を学んだ六日間でした。

議会報告

八月二十八日、第五回川西町議会臨時会が開かれました。会期は一日間です。議案は、公営住宅建設にかかる建設工事請負契約の締結一件で、原案どおり可決されました。契約の相手方は山家・丸安・タカヨシ共同企業体で、契約金額は六千八百一十五万円です。

また、戸田哲次議員(仁田・67歳)から「一身上の都合による辞職願」が提出され、許可されました。戸田さんは、昭和四十八年九月から現在まで二十五年間在職。この間副議長二年、常任委員長六年、議連委員長二年十月、監査委員二年などを歴任されています。



星条旗が組み込まれている自動車のナンバープレート

今回は、都市計画マスタープランの性格や構想についてお知らせします。

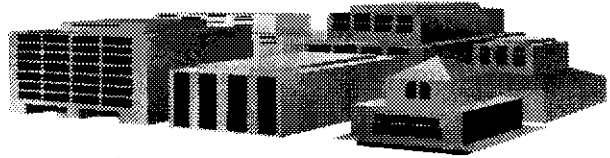
マスタープランと総合開発計画は、 どう違うの？

町には、『総合開発計画』という、福祉、産業、都市計画などすべての分野を網羅した行政の方針を示す計画があります。

『マスタープラン』は、総合開発計画で示された考え方を踏まえて、より詳しくまちづくりや都市計画の分野についての方針を示すためにつくられます。策定された計画期間は、総合開発計画が概ね10年であるのに対し、マスタープランは、20年後のまちを考え、必要なルールづくりや整備事業の方針を示すこととしています。そして、この策定されたマスタープランの方針に沿って、まちづくりを進めることになります。

お問い合わせやご意見は…

建設課都市計画係 ☎68-3111(内線322)



全体構想と地域別構想ってなあに？

マスタープランは、全体構想と地域別構想の二つの構想から成り立ちます。

『全体構想』は、町全体を方向づける視点での都市づくりの方針を策定します。一方、『地域別構想』は、みなさんが住んでいる地域（千手、上野、橘、仙田地区）を単位として、その役割、魅力、特性などを創出、発掘し、それぞれにあった地域づくりの方針を策定します。

全体構想で大きな枠組みや方向性を決め、より生活に密着した地域別の構想を進めるという流れでマスタープランは策定されていきます。

男子雇用対策に朗報 抜型の事業所が進出計画示す

八月二十一日、地域活性化センター第二研修室で、町と有限会社関口木型製作所（本社＝群馬県前橋市、業種＝ダンボール・紙器用拔型製作、従業員20人、関口隆司



署名を終え、契約書を交わす
南雲町長（左）と関口社長

取締役社長）との間で、土地の賃貸借契約が交わされました。

進出が予定されるこの土地は、三領にある町有地でおよそ二千方メートル。同所では、十月から川西工場進出時に勤務できる従業員五人程度を募集する予定となっており、今年いっぱいには仮事務所（およそ三十坪）も設置したいとしています。また、十一年七月あたりをメドに、さらに五人程度の募集をしたという意向をお持ちで、従業員の技術研修が整う、十二年四月をメドに川西工場を進出したという計画が示されました。

なお、募集などについての詳細は、ハローワーク十日町又は役場開発課へお尋ねください。

高齢者敬祝事業の制度を見直し

町では、行財政改革推進の一環として、高齢者敬祝事業の制度を見直しました。昨年に引き続き実施する事業は、次のとおりです。

☆ 上寿の祝（百歳・祝い金の支給）

☆ 米寿の祝（八十八歳・祝い品の贈呈）

☆ 喜寿の祝（七十七歳・祝賀会の開催）

☆ 敬老の祝（七十五歳以上・委託事業で各地区の敬老会を開催。なお、今までおあげしていたお祝い品（お茶）は、取りやめさせていただきます。）

AAスクールの学生も地域のひとと一緒に
なつて「もみじ引き」に参加しました



地域とAAスクール学生が交流

8月12日から9月6日までの26日間、旧白倉小学校をメイン会場に、ロンドンAAスクール「川西ランドスケープワークショップ98」が開かれました。ドイツ・メキシコなどの学生14人のほか、日本人学生9人が加わり、白炊をしながら、ゲートボール場の口よけ、景観観賞用の台などを製作したほか、公園や東屋の位置などのプランづくりを実施。30日に実施された伝統行事「もみじ引き」にも参加するなどして交流を深めました。

身近な素材で作品作り、アート・ワークショップを開催



グループで、独自の「巣」作りに挑戦しました

平成12年の夏、越後妻有の大自然を舞台に、世界のアーティストの参加による里創プランの主要事業のひとつ「越後妻有大地の芸術祭」が開催される予定になっています。そして、大地の芸術祭の一環として平成10年度・11年度・12年度とアート・ワークショップが開催されます。このワークショップは、大地の芸術祭に大きな広がりや充実をもたらすステップになるもので、今回は8月3日から9日までと、24日から29日の2回、圏域内6市町村の各会場で実施されました。

町では、8月28日、克雪管理センターを会場に、ホセイン・ヴァラマネッシュさん（テヘラン生まれ・オーストラリア在住）のワークショップが開かれ、町内小学生・大人合わせて60人ほどが、電話台やビニール袋、ヒモなど、室内にあるいろいろの素材を使って「巣」を作りました。

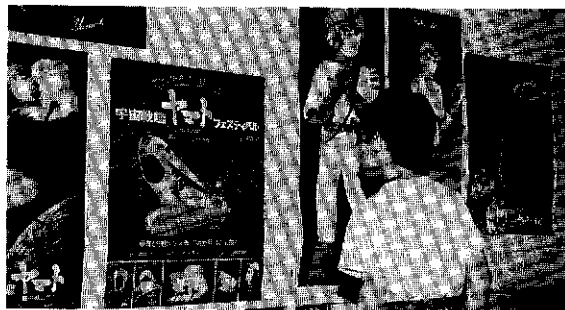
地球環境汚染問題を考える

8月25日、総合センターで、上越教育大学講師で環境カウンセラーの古沢良彰さんを迎えて、地球環境保全について講座が開かれました。

人類は、今まで多くの地球の持つ資源を生かし豊かな文化を築いてきた。しかし、大量生産・大量消費は、地球環境汚染問題を生み出してしまった。これは、かつて人類が遭遇したことのない現象であり、地球温暖化、オゾン層の破壊、汚染物質と環境ホルモンなどがどんなにか人類滅亡となるかを分かりやすく解き、「地球が今危ない」と訴えていました。



「地球が今危ない」と訴える
環境カウンセラーの古沢さん



『宇宙戦艦ヤマト』

セル画・ポスターを公開中

日時 9月20日まで 午前7時～午後10時
会場 サンパレスナカゴホール

トンボ観察会を実施

8月15日、ナカゴグリーンパーク付近でトンボ観察会が開かれました。キイトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマなど、今回見られたトンボは町の全域で比較的見つけやすい8種ほど。飛び交う時期が例年に比べると20日ほど早いようです。「4月のころの温かい天候が影響している」という指導員の話です。

▼採取したトンボの説明を熱心に聞きました



▲飛行機の型を一生懸命切り抜く参加者

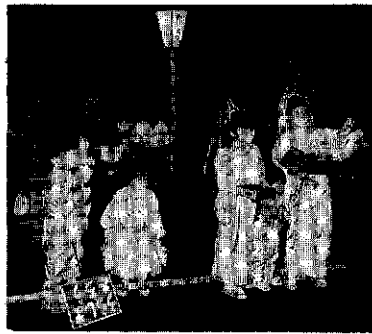
紙飛行機で楽しむ

8月9日、総合体育館で、親子紙飛行機大会が開かれました。この大会は、青少年育成町民会議（金子澄男会長）が主催して毎年実施されているもので、今回は六十人ほどが参加。親子で紙飛行機づくりをした後、幼児、小学生低学年・高学年の三部門で飛行距離を競って楽しみました。



第10作を数える大河ドラマ「黒城風雲録」の一場面

上野諏訪まつりに沸く



子供団体の部1位となった「うらしまろう」

個人・団体合わせて二十一組が参加。趣向を凝らした装いに、会場からも盛大な拍手や歓声があがっていました。

また、二十七日には、上野小学校でお楽しみゲーム、手作り大河ドラマを上演。また、ペルーで結成されたアンデス地方の民族音楽グループ、「ロス・チュルパス」によるコンサートも実施され、祭りを盛り上げました。



町を代表して実践発表をする高橋彩乃さん

生涯学習を更に推進するために

八月二十三日、総合センターで、「第四十三回中魚沼郡・十日町市社会教育大会」「第八回町生涯学習推進大会」が開催され、四市町村から関係者百五十人が参加しました。四市町村の代表四人が学習や活動に参加した実践発表を行った後、参加者は、安塚町公民館長春日サヨ子さんの「男と女の共生する社会づくり」と題した講演を聞きました。

実践発表では、町からは高橋彩乃さん（伊友・10歳）が「楽しい料理教室」と題して発表。彩乃さんは、料理教室におばあちゃんと妹の三人で参加。料理がうまくないことが多かったこと、いろんな人と料理を作りたいということから参加したそうです。最初は恥ずかしくていろんな人と話もできなかったけど、今では自分から話し掛けができるようになった。また、習った料理を家族に食べてもらい、喜んでもらえたことがうれしかった。さらに、料理以外に油を再利用したせっけんや、添加物の実験もとてもプラスになったと発表。来年度も教室があったら参加し、もっといろんな人と楽しく料理を作っていきたい、と話していました。



4市町村の代表による実践発表が行われました

地震についての知識や備えは、それを現場で生かす力があって初めて役に立つもの。災害からあなたと家族、あなたのまちを守るには、適切に対処できる防災行動力を身につけておくことが大事です。九月一日は防災の日、五日までは防災週間です。防災行動力は普段の体験から養われます、防災訓練などに参加して、災害の実践力を磨きましょう。



もし、突然、大きな地震が襲ってきたら——そんな恐ろしい状況はあまり想像したくないかもしれない。しかし、地震災害の多い日本に住む私たちにとっては、生死にかかわる問題です。

防災を他人任せにしているだけでは、災害から身を守ることはできません。大地震発生時は、道路が遮断されたり、多くの場所で被害が出たりするため、すぐに救出してもらえないとは限らないからです。

ですから、私たちは、まず、自分の身は自分で守る、自分たちの町は自分たちで守れるように、日ごろから防災対策をしておくことが非常に大事です。

災害時に命を守るために、次の三つのポイントを、しっかり押さえておきましょう。

① 非常持ち出し品を準備する

【主な非常持ち出し品……飲料】

水、食料品、医薬品、貴重品、ヘルメット・防災ずきん、手袋、マッチ・ライター、ロウソク、懐中電灯、ラジオ、乾電池予備、衣類、毛布、ナイフ・缶切り」

④家族で防災について話し合う

①身の安全を守る

揺れを感じたら、机やテーブルの下に身を隠し、身近な座布団などで頭部を保護します。ドアや窓を開けて脱出口を確保することも大切。すぐに戸外に飛び出すと、瓦やガラス、外壁などが落ちてくることがあるので注意しましょう。

②火災を防ぐ

②火災を防ぐ

使用中のガス器具、電気製品、石油ストーブなどは直ちに消すこと。万一火が出たら、あわてずに消火器などでボヤのうちに消し止めます。手に余るようなら大声で近所の人に応援を求めましょう。

- ・正しい情報を入力する
- ・協力し合って、消火・救出・応急救護をする

▼ 家族それぞれのリュックに準備しておこう

非常食品	飲料水		衣類	セーター	
	インスタントラーメン			ジャンパー類	
	缶詰			下着	
	ビスケット			毛布	
	チョコレート			厚手の手袋	
救急用品	傷薬		その他	ヘルメット	
	胃腸薬			携帯用ラジオ	
	脱脂綿			予備電池	
	ばんそうこう			マツチ	
	包帯			口ウソク	
育児用品	ミルク			ナイフ	
	紙おむつ			缶切り	
	ほ乳びん			懐中電灯	

▼ 貴重品は非常持ち出し袋とは別に管理しよう

貴重品	現金（5万円程度。お札と小銭に分けて）	
	通帳、印鑑	

弁当箱と家庭教育

岩瀬金子幸作

昔の夢が懐かしく

商店やスーパーの陳列棚を物色して、空しさというか、ふと泣きたいような衝動にかられて切なくなることもある。この心理的な現象は台所用品の売り場で、重箱のように組み合わせたコンパクトな弁当箱を目にしたときにおこる。

見た目が奇麗で「買おうか」と手に取ってはみるが、「イヤ、俺にはもう用のない品だ」と思うと過ぎた日が妙に懐かしく、弁当箱などと一緒に無用となった自分の「長い間ご苦労だったナ」と労いのことをかけてみたくなったりする。もしも、神様がもう一度この俺に若さを授けてくれるなら、こんなに素敵な弁当箱に妻の手料理を詰めて役場へ通えるのにと、いまは叶わない遠い日の夢を追ったりするのである。

夜店で買った宝物

ワッパの弁当箱が幅を効かせていた昭和の始め、千手の瀬戸物屋が集落の共同作業場前で夜店を開いた。カーバイトの青い光に照らされた茶碗や皿小鉢の傍らに、ニッケル製の弁当箱が並べてあり、

これがどうしても欲しくて、母にいくども頼んで買ってもらったときはうれしかった。

梅の花をあしらった蓋の斜めに箸入れのくぼみが彫ってあり、細長く差した押さえを引くと金の箸が出てくるハイカラの弁当箱だった。当時は美味いおかずの有るはずもなく、大根のカテ飯を詰めたまん中に梅干をのせた日の丸弁当の毎日が続いた。歳月の経過につれて腐食がはなはだしく、ついには水も漏るようになったが、それでもなお大事に使った、六十年も前のあの弁当箱の温もりを今も忘れない。

大石先生とコッソル

松竹映画「二十四の瞳」が、小豆島は岬の分校で、昭和初期の女教師と児童の温い心の交流を写している。「荷物運びの一厘屋」の長女で小学六年生のアベコッソルが病気がちの母に「アルマイトの弁当箱を欲しい」とせがむ場面がある。床から起き上がれない母は「病気が治って働けるようになったら買ってやる」と言うが、産後の肥立ちが悪くてまもなく他界、見かねた高峰秀子の大石先生が、

百合の花模様のついたカラーの弁当箱をプレゼントしてくれる。このときの、喜びと感激の涙にむせぶコッソルの顔がうかんでくる。

この映画のコッソルの心況は、学校給食の無かった時代を生きた年寄衆には良くわかるが、暖衣飽食の中で我慢や苦勞を知らずに育つ現代の子どもたちには理解できないかも知れない。

南雲町長と玉子焼

南雲春雄町長から聞いた次の話は、川西郷の銀座ともいえる千手の中央町でさえそうであったのかと、昭和初年の食生活が偲ばれ、清貧が不屈の精神や豊かな情操を培った時代を思いおこす。

「昔の児童・生徒は、母が手づくりの弁当をふろしきに包んで学校へ通った。昼食の時間に、友だちの中身を気にしながら包みを開くが、多少の引け目はあったとしても箸を運ぶと胸が温くなり、一切れの味噌漬を噛みしめるたびに親や家族の愛情が伝わって感謝の気もちがわいてきたものだ。

弁当の中身は大差なくて、どの子も似かよっていた。官舎の子どもたちのおかずは何時も黄色い沢庵漬のようであったが、よく噛むでもなく、音も立てずに食べるのが不思議だった。それが、玉子焼という美味い料理だと知ったのはだいぶあとのことになる。発電所

工事に携わる職員は鉄道省の官員様（国の役人の敬称）で、食生活もそれだけ良かったのだらう」。

箸を使えない子

中央の教育審議会が家庭の役割りを強調して、「家族一緒の食事の大切さ」を訴えた答申を文部大臣に提出している。町のS保育園長に聞いたら、「一番の悩みは箸の使い方を知らない園児が多いこと」だそう。この現実を学校給食会議で話したら、I校長は「給食時に犬食いする児童が目につく、噛むことを知らない」という。K校長は「確かにそうだが、学校ではほかに教えることがいっぱいあって、家庭の責任である食事のしつけにまで手がまわらない。それに、楽しいはずの給食時間にキビシイことを言うてせつかくの食事が不味くなる」と問題提起した。

Y校長によれば「スポーツの選手を育てるコーチは中学生に目をつける。スカウトする、しないは給食時の様子を見て決めるが、すぐれた素質を持っていても箸を満足に使えない生徒は除外する。基本的習慣を身につけないで育った子は、どんなに教えても駄目だから」なのだそう。

七歳までに躾る

某警察署の生活保安課長から聞いた話に衝撃を受けた。

元気に遊ぶ子供たち
(南原保育園で)



「悪いことをした少年を捕まえても、罪の意識を持たない者が多い。どうしてこんなことをしたかと聞いても、ふてくされて横を向いたり、机の上に足を投げ出したりにして答えようとしない。食事どきになって井物を出すと、頬杖を突き、ペロリと舌を舐めながら犬食いする」というのである。

子どもは、成長の過程で大事なことを教えるこめば、あとは自分の個性や力を発揮しながら伸びていく習性を持っている。小学校に上がるまでに大切なことをしっかり教え、小・中学生になったら過保護や干渉のしすぎにならない範囲で、必要なときにだけ手助けしてやるのが親の大事な役目なのではなからうか。パーソナリティー（個性・人格）は七歳までに決まるといわれている。

お知らせコーナー

息らくらく教室

★日時

9月16日・30日、10月7日
いずれも、午後1時～4時

★場所

十日町市身体障害者福祉センター
― 集会室

★対象者

肺気腫、気管支喘息、じん肺、
肺結核後遺症者などで息切れ・
咳・痰などの症状でお困りの方。

★内容

肺機能検査、肺の病気についての
医師の講話や個別相談、太極
拳を取り入れた腹式呼吸の練習、
参加者同士の座談会、保健婦の
生活指導など。

★参加申し込み

十日町保健所地域保健課「息らくらく教室」担当者まで。
(☎57-2400)

職員募集

(社)「松濤会」では、老人保健施設「希望の里 松濤園」に勤務する職員を次のとおり募集します。

◆施設の住所

東頸城郡松之山町大字浦田

2955-1

◆職種及び人員など

・看護婦(士) 10人 正看護婦及び

び准看護婦で、20歳～50歳の者

・理学療法士1人 国家資格を有する20歳～50歳の者

・作業療法士1人 国家資格を有する20歳～50歳の者

・介護職員10人 18歳～40歳

・介護職員(パート) 20人 18歳～40歳

・厨房職員5人 18歳～50歳

※いずれの職種とも通勤可能な者

◆試験 面接

◆採用 平成11年6月1日以降

◆応募の方法

ハローワーク十日町で、松濤園に勤めたい旨を申し出て下さい。詳細をお知らせします。

◆その他

受付期間は特に定めていません。しかし、応募者がある程度まとまった段階で随時面接を実施します。

◆問い合わせ先

松濤園準備室
(☎02559-6-2512)

電話帳を回収します

N.T.T.では、新しい電話帳「中越タウンページ」を九月上旬から末日までの間に企業や家庭にお届けします。

その際、今までお使いの電話帳は、紙資源として再利用するため

回収させていただきますので、配達員が新しい電話帳をお届けしたときに、今までお使いの電話帳をお渡しく下さい。

また、N.T.T.のお客様窓口で電話帳回収ボックスを設置し、十月末まで回収をしますので、ご協力をお願いいたします。

※電話帳回収についての連絡先

N.T.T.電話帳お届けセンター

フリーダイヤル

☎0120-324182

・受付時間は、土・日・祝日を除く九時から十七時までです。

忘れぬ受けよう

運転免許所有者講習会

町交通安全協会では、次の日程で講習会を開きます。都合のつく会場におでかけください。

地区	月 日	会 場
千手	9月17日(木)	千手小学校体育館
上野	18日(金)	新潟川西農協本所
橘	19日(土)	橘小学校体育館
白倉	21日(月)	旧白倉小学校体育館
仙田	24日(木)	仙田小学校体育館
時間はいずれも午後7時からです		

国民年金の『前納制度』をご存じですか

国民年金の保険料納入方法には、前納という制度があります。この前納制度とは、ある一定期間の保険料を前もって納める制度です。前納は納め忘れを防ぐだけでなく、年5.5パーセントの割引率で大変お得です。

今回は、平成10年10月から11年3月までの6か月前納をお勧めします。

区 分	毎月納付	6か月前納	割引額
定額保険料の場合	79,800円	78,920円	880円
定額付加保険料の場合	82,200円	81,290円	910円

前納を希望される方は、9月30日までに役場住民係へ申し込みください。後日、六日町保険事務所から納付書が送付されます。

ふれあい看護体験'98に参加しませんか

往復はがきに住所・氏名・年齢・男女・職業・電話番号を記入し、〒951-8133

新潟市川岸町2-11 新潟県看護協会ふれあい看護体験係

★申込期限 9月20日必着

★実施病院・月日・人数など

中条病院 10月16日(金) 6人

上村病院 10月15日(木) 3人

小千谷総合病院 10月16日(金) 5人

★参加費 無料

★申し込み方法

秋の全国交通安全運動

期間

9月21日(月)から9月30日(水)まで

スローガン

反射材 つけて安心 夜の道

10月1日午前0時から
十日町地域消防本部の代表電話番号が

0257-57-0119 に変わります。

注意) 携帯電話を使つての119番通報は、10月28日からいったん上越消防本部に入り、十日町地域消防本部につながるますので、携帯電話を使用しての119番通報も、できるだけ一般加入電話でお願いします。

赤ちゃん大学開催

- ・とき 9月13日 午後2時
- ・ところ 中里村ユ一モール
- ・内容
- 第一部 こもりうた
- 第二部 赤ちゃん大学講座
- 第三部 こもりうたアラカルト
- ・入場料 千円(二人ペアで入場可)

※入場券のお求め、お問い合わせは、赤ちゃん大学実行委員会(上村病院内(63-2111)へ。

かわし 俳壇 高崎正風選

大根蒔く二人暮しの山の畑
虹の色消えてまた降る通り雨
打ち上げる音がしきりに遠花火

青量敷きしごとくに稲倒る
四郎兼 平野 恵春
農地減る練馬の畑に大根蒔く
練馬区 須藤 遊人
盆客の去りて残りし老夫婦
小白倉 江口みゆき
河骨の花の影のみ水ゆらぐ
足立区 涌井ハル子
湯につかり見る音の無き遠花火
野口 五十嵐トラ
隅り子のゆかたをぬらしにわか雨
中仙田 樋口タマエ
三つ指でひねり大根種を蒔く
小白倉 田中 優美
終戦日孫四才の誕生日
野口 村越 由喜
梅雨晴れ間白衣観音ほほ笑める
浦和市 登坂 博史
茶の一座酒の一座や秋祭
元町 田畑 吉治
理髪終え鏡の中に夏のあり
元町 金子 鉄平
六尺間首をこめて帰省の子
新町新田 若山 向山
敵立る土にふわりと桐一葉
山野田 藤田ひろ志
揺れているコスモスの道なおづく
志木市 山田十久二
四五人の動き止めしは毛見の衆
野口 野沢 寅生
青柿のポトリと落ちて蟻さわぐ
八王子市 松浦 サク

亡き人の小袖も吊りぬ土干干
田蛙の声懐かしき父の里
田中町 石沢 澄代
句仲間遠くより来し暮まり
赤谷 小林 哲

休日救急医

9月13日	山口医院(袋町)	☎ 52-2174
15日	第二藤巻医院(上野)	☎ 68-2018
〃日	津南病院(津南町)	☎ 65-3161
20日	大熊内科医院(山本町)	☎ 52-7066
23日	山口医院(下条)	☎ 55-2003
〃	上村病院(中里村)	☎ 63-2111
27日	長山医院(津南町)	☎ 66-2877
〃	中条病院(中条)	☎ 57-3018
10月4日	大島医院(川原町)	☎ 52-2957
10日	大坪医院(四日町)	☎ 57-6100
11日	庭野医院(寿町)	☎ 52-2711

—ゴールドデンウォーキングのすすめ—

周りの人に迷惑をかけないで「ロツと死にたい」と願う人が多くなっています。国立老齡医学研究所長の見解では、「九十歳位まで自分で身の周りの事ができて元気に生きていると、コロツと逝くことができない」とのことです。寝たきりになって一ヶ月以内に死ぬ人三十八%。三年以上寝たきりで死ぬ人四十七・三%。介護者も高齡化し、疲れています。寝たきりにならない為に、健康づくりが必要になっていきます。

「筋力トレーニング」

年と共に脚腰の筋肉が衰え、足元がやしくなります。つまづいて転ぶ→骨折→寝たきりへの引き金です。中でも脚の後ろの筋肉が衰えます。脚の前後の筋肉のバランスを良くする必要があります。首の筋肉や、腹筋、背筋のトレーニングで前かがみになった姿勢を良くします。

是非、ゴールドデン(金の)ウォーキングに挑戦してみることをおすすめします。

(明治学院大学名誉教授
高橋賢一先生の講演より)

朝でも夕でも調子の良い時に、少し速めに、毎日一日おきに三十分、一万歩を目指します。歩く前後に水分を補給し、体温の上がりすぎを防ぎます。暑すぎない、寒すぎない服装で、衝撃の少ない



戸籍の窓から

うぶ声—おすこやかに

村越 夏生 嘉貴 野口

丸山 友紀乃 古都女 野口

滋野 結希 純一 野口

米山 蓮 貴幸 子室 島

高橋 夏帆 光剛 子志 中屋敷

小林 ななみ 立昌 中仙田
若山 陽 隆夫 新町新田
たかさご—ご円満に

(高橋 準 一 赤谷 尾身 弘 美 十日町市)

昇天—ごめい福を祈る

丸山 甚作 67(甚作) 根深
小林 俊男 71(均) 新町新田
小海 フミ 75(末一) 小根岸
野沢 トシ 76(誠) 仁田
星名 梅治 94(梅治) 下平新田
(8月1日—31日届け出分)

表紙の写真

八月二十二日、赤谷十二神社境内と克雪管理センターを会場に、「寒九のとろろの里学習会」が開かれ、仙田小学校四・六年児童と保護者合わせて三十人が郷土の学習や、とろろ汁の料理実習などをして、地域の認識を深めました。

仙田地区では、昔、寒の入りの日から数えて九日目、自然薯でつくったとろろ汁をいただく、一年中健康でいられる、中風になら

ないといわれていました。そんな風習があったことなど、知らない保護者も多くなってきた中で、こんな素晴らしい料理が地域にあることを認識し、子供たちにも伝えていきたいということで、仙田小学校PTA(高橋直人会長)が取り組んだもの。

当日は、町教育委員長の金子幸作さんから赤谷十二神社大ケヤキの歴史や、とろろにまつわる昔の話を聞いたり、ライフコーディネーターの田中カツイさんの「とろろの里学習会」や、食の研究会(金子ヒロ子代表)十人からお手伝いただいた、とろろ汁と粉豆腐の調理実習をしました。

近い将来、赤谷十二神社境内を舞台に、「寒九のとろろ祭り」も計画されているようです。



とろろ汁と粉豆腐づくりに取り組む参加者

ちいさな展覧会

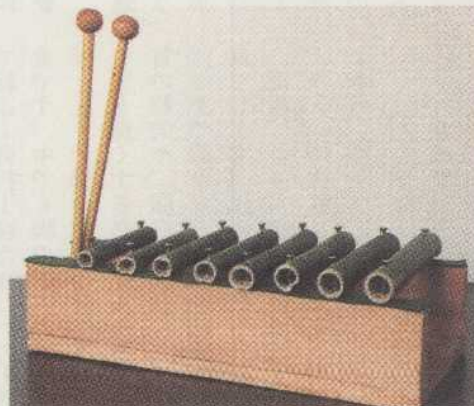
121

上野小学校

(10月号は橘小学校です)

「竹琴」

5年生 高橋拓朗くん

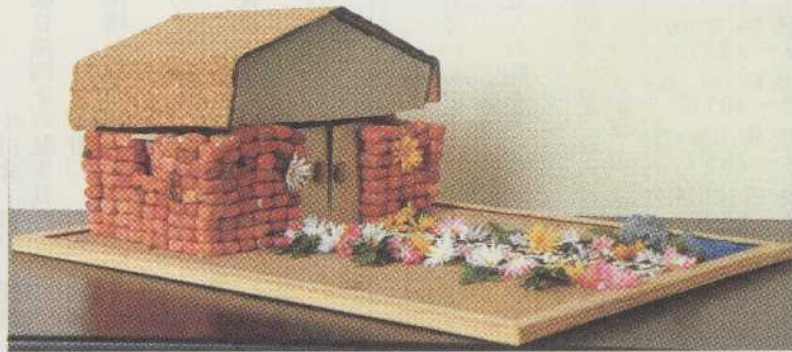


「花」
2年生 清水 剛くん



「私の家」

6年生 桐生さゆりさん、蔵品茉耶さん、沢口 瞳さん



「ワニ」 1年生 根津 元くん



「貯金箱」
3年生 田村沙貴さん

「あやつり人形」
4年生 金子尚矢くん

